

真鶴町グランドデザイン(案)

～100年経ってもにぎわいのある町～

岩漁港周辺



真鶴半島



真鶴港周辺



真鶴駅周辺

平成31年3月 真鶴町

∞ はじめに

策定の背景・趣旨



真鶴町はこれまで、豊かな自然と美しい風景を守りながら、少子高齢化にあっても、町民一人ひとりが支え合いながら暮らしの質を高めていく独自性をもったまちづくりを進めてきました。

行政運営では、「未来を築くビジョン（第4次真鶴町総合計画）」を基盤とし、人口減少に対して先導的に実施する地方創生事業を「真鶴町人口ビジョン」、「真鶴町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けて展開してきました。

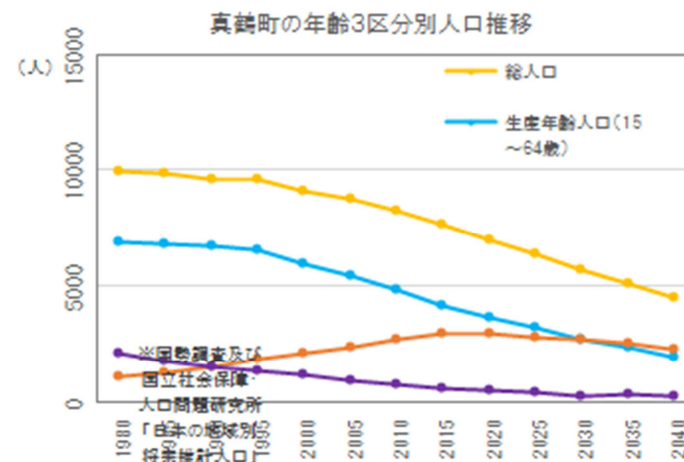
しかし、本格的な人口減少社会に突入し、今や真鶴町は「消滅可能性が高い」自治体の1つとされています。また、平成29年4月、神奈川

県では唯一「過疎地域」に指定されました。今後さらなる人口減少や高齢化の進展が予想されています。

真鶴町がこの先、何十年にもわたって自立していくためには、長期にわたる町の方向性を描き、これまでバラバラに進んできた町の各事業についても、統一の方向性をもって推進していく必要があります。

真鶴町グランドデザインは、町が今後も自立していくために、町に住む人の利便性を高めるとともに、町外の人からも魅力的に映るような、町が目指していく姿を描いた青写真となるものです。

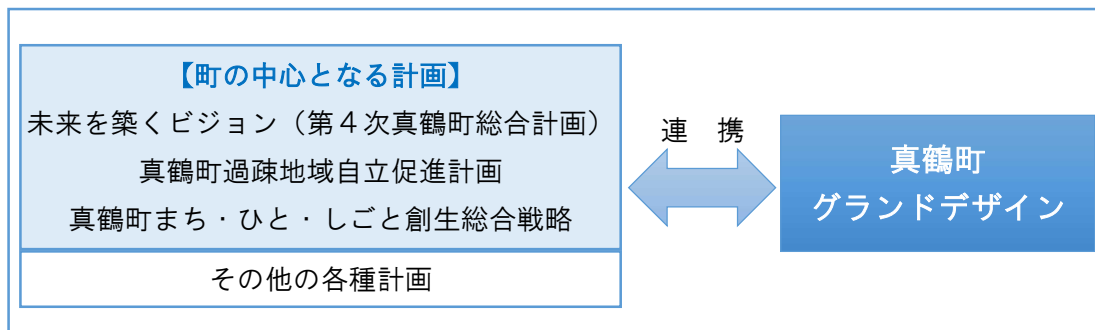
なお、本書中に示す今後の取り組み案やイメージパス（構想図）は、今後の開発、整備や事業を決定、拘束するものではなく、まちづくりの方向性を示すものです。町が今後、具体的な事業として推進する際には、このグランドデザインを参考に推進していきます。



グランドデザインの位置付け

真鶴町グランドデザインは、「未来を築くビジョン（第4次真鶴町総合計画）」、「真鶴町過疎地域自立促進計画」、「真鶴町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と連携していくものとしします。

また、真鶴町グランドデザインは、町の各種計画と上位下位の関係にはなく、また法的拘束力はありませんが、まちづくり、町政の方向性、町が取り組んできたことを集約して策定し、今後のまちづくりの指針となるものとしします。



協働による策定

このグランドデザインは、町の長期の方向性を検討していくものであるため、町民の皆さまのお声を聞く機会を設定しました。また、町の関係者との協議や町役場の若手職員を対象としたワーキングも実施し、町全体での策定を図りました。



住民との検討会

グランドデザインについて、住民目線でのご意見をいただきました。

関係者協議



各地区の各種協議体などの関係者、団体からご意見をいただきました。



若手職員ワーキング



町役場に勤務する若手職員が、グループワークで意見を出し合いました。



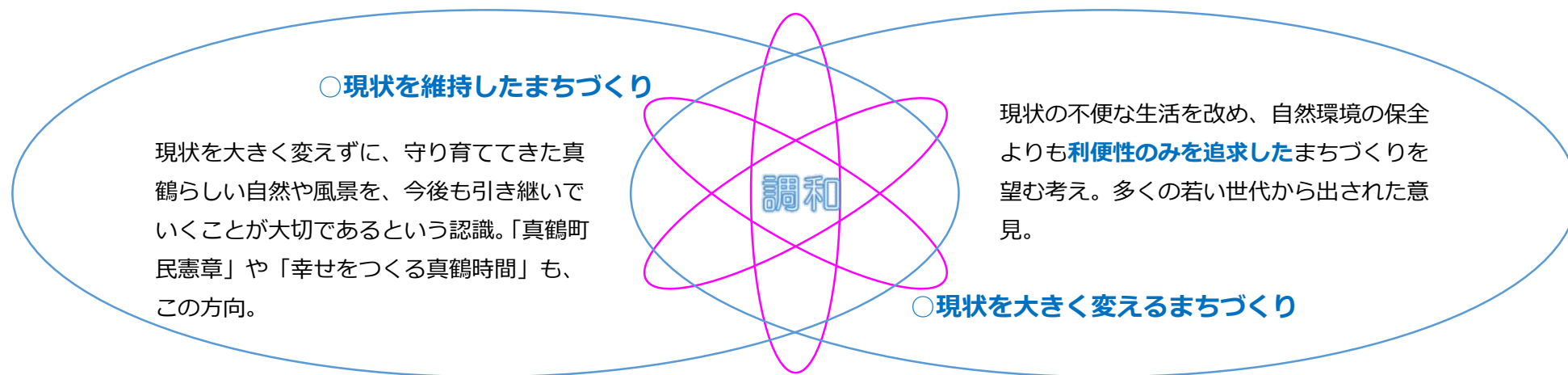
協議の経緯

日程	協議等
8月	町役場若手職員ワーキング①
9月	【岩漁港】関係者協議① 【真鶴駅】関係者協議①
10月	庁内調整会議① 【真鶴半島】関係者協議① 【真鶴港】関係者協議① 住民との検討会①（町民との意見交換会） 町役場若手職員ワーキング②
11月	【真鶴駅】関係者協議② 【岩漁港】関係者協議② 【真鶴港】関係者ヒアリング 庁内調整会議② 【真鶴半島】関係者協議② 住民との検討会②（11/23・11/28）
12月	子育て世代との懇談会
1月	庁内調整会議③ 【真鶴港】関係者協議② 【真鶴駅】関係者協議③ パブリックコメント説明会 パブリックコメント（1/25から2/14）
2月	町役場若手職員ワーキング③
3月	ランドデザイン完成 ～ 公表

∞ グランドデザイン策定の目的

まちづくりについての意見

各種会議等での検討の結果、真鶴町の将来のまちづくりに関して伺ったご意見は大きく以下の2つに分類されました。



グランドデザインの目的

真鶴町グランドデザインは、人口が減少し、将来の存続が危ぶまれる真鶴町が今後も自立していくための構想となるものであり、それは喫緊の課題である過疎対策にもほかなりません。そのため、真鶴町グランドデザイン策定の目的を「**自立**」と「**過疎対策**」の2点としました。

現状を維持したまちづくりを進め、**真鶴らしい自然や風景を、今後も引き継いでいくだけでは自立や過疎対策にはつながりません。**

一方で、現状を大きく変えるまちづくりを進め、現状の不便な生活を改め、**利便性を追求したまちづくりをすれば、真鶴らしさは失われます。**

これを踏まえ、真鶴町グランドデザインの方針を検討しました。

∞ 未来のために持すべき視点

時代の流れ

真鶴町ランドデザインの取り組みは**短期・中期・長期の視点を持つ**ものとしませんが、100年先はもちろんのこと、10年先の世の中を予測することも非常に困難です。しかし、現在起きている事象から、人びとの生活が大きく変わっていくことは想定されます。ランドデザインでは、**時代の流れも考慮し**、そうした**少し先の未来にある暮らしやすさ**も視点として持つものとしします。

現在起きている事象

- AI・IoT等第4次産業革命
- 3Dプリンタ
- 電気(水素)自動車・自動運転
- 英語の共通語化
- UAV(ドローン)・VR・AR
- ビッグデータ・オープンデータの活用
- キャッシュレス(アリペイ等)
- シェアリング・エコノミー
- 多様な働き方
- 訪日外国人の増加



未来は・・・？

- 会社に行かなくても仕事ができる
- 買物はネットですべて完結
- 公共交通機関も自動運転
- データの重要性が高まる
- 外出が減り人との接触が減る
- 健康寿命が短くなる



∞ グランドデザインに必要な視点

SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、**地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind)** ことを誓っています。

「100年経ってもにぎわいのある真鶴町」という真鶴町グランドデザインの方針は、**町の存続のためにいろいろ取り組んでいくけれども、真鶴らしさは維持させる**というものです。これはSDGsと志を同じくするものであり、グランドデザインではこの視点も持ち合わせるものとします。



∞ グランドデザインの方針

各種会議等での検討や真鶴町グランドデザイン策定の目的を踏まえ、真鶴町グランドデザインの方針を以下のように設定しました。

『100年経ってもにぎわいのある真鶴町』

また、この方針を達成するための4つの柱を以下のようにたてました。人口対策・産業振興・観光振興・生活利便性の向上を4つの柱として推進すること、真鶴町が**100年経ってもにぎわいのある町**であり続け、自立し続けることを目指します。

人口対策

1

人口減少にストップをかけ、活力を維持するまち

産業振興

2

産業が活発になり、働く場所、働き手も増えることでにぎわうまち

観光振興

3

観光資源をより魅力的なものにし、また来たいと思わせるまち

生活利便性の向上

4

暮らしやすくすることで、選ばれるまち

∞ 真鶴町のポリシー

4つの柱を推進することで、真鶴町グランドデザインの目的である自立と過疎対策に対応するものとしますが、一方で、**今まで大切に守ってきた真鶴の自然や風景を後世に残す**ことも重要です。これまで守ってきた「真鶴らしさ」が失われないようにする必要があります。真鶴町は、100年先の時代においても、次のポリシーを継続します。

自然環境の保全

- 「ひかり輝く相模の海にのぞみ、緑豊かな美しい真鶴半島は、町民の心のふるさとである。先人からうけついだこの歴史ある町を愛し、誇りとして、いつまでも心ふれあう住みよい町にする」、これは真鶴町民憲章から抜粋したものです。
- 100年後も現状に近い自然環境が残っているとすれば、それは全国でも貴重な存在となり、真鶴町の価値を高めるものとなる**のではないのでしょうか。
- 真鶴で保全すべき自然は、海とお林です。**保全とは、保護と活用の両輪**であるといえます。

○真鶴町民憲章 昭和 56 年 9 月 30 日告示第 18 号

ひかり輝く相模の海にのぞみ、緑豊かな美しい真鶴半島は、町民の心のふるさとです。私たちは、先人からうけついだこの歴史ある町を愛し、誇りとして、いつまでも心ふれあう住みよい町にするため、ここに町民憲章を定めます。

- 1 自然と環境を大切に、次の世代に伝えましょう。
- 1 健康な心と体をきたえ、仕事に誇りと責任をもちましょう。
- 1 お互いに仲良く、思いやりの心を育てましょう。
- 1 きまりや約束を守り、平和な明るい町にしましょう。
- 1 教養を高め、文化の香り豊かな町にしましょう。



ロケーションの継承

- 海と山に囲まれたコンパクトなまちだからこそそのロケーションに惹かれる、という声を真鶴町に移住してきた人から伺いました。
- 守り続けてきた美の基準は、多くの町民の誇りであり、今後も踏襲することで、**真鶴らしさを残して**いきます。
- 美の基準はまちづくりの象徴として継承しつつ、まちづくり条例は時代に合った形での見直しも視野に入れます。

∞グランドデザインを推進するうえでの課題

真鶴町グランドデザインの方針である「100年経ってもにぎわいのある真鶴町」を目指し、人口対策、産業振興、観光振興、生活利便性の向上の4つの柱を進めるにはさまざまな課題があり、それらを踏まえたうえで取り組みを検討します。

課 題

- 行ったことがない、見たことがないところには住まない
- 生活するための収入が得られることが条件
- 楽しい思い出や成功体験があるとよい
- 安全でストレスがない環境
- 誇りや愛着は強み
- 企業進出・流出防止には企業側のメリットが必要
- 最低限、情報通信基盤の整備が必要
- 戦力となる生産年齢人口が必要
- 多言語対応できる人材は重宝される
- 起業支援、税金控除等バックアップ体制が必要
- 真鶴で出産・育児・教育するメリットが必要
- 介護のケアマネジャーのように子ども一人ひとりを支援する体制に
- 隣近所、地域といった人と人の関わりを重視する取り組みを推進
- 英語教育の充実は評価される
- 社会性、英語力等で結果を出し、口コミで広がる
- 真鶴町に住むには住民側のメリットが必要
- デメリットといかに向き合うか
- 小回りが利き、住民一人ひとりの顔がわかるのは大きなメリット
- 寄付を含む自主財源の確保と、企業や近隣市町との連携

推進の課題

想定される取り組み

- 真鶴を知る・行く・見る・聞く・嗅ぐ・食べる・体験する（五感）
- 働く場を確保する
- 楽しい思い出や成功体験をつくる（旅行・遠足・研修・イベント・グルメ）
- 防犯・防災・交通安全や、森林浴や森林セラピー、心の支援
- 誇りや愛着の醸成
- 企業にとってのメリットをつくる
- 情報通信基盤を整備する（町内全域無料wi-fi）
- 生産年齢人口を増やす（UIターン）
- 多言語対応人材の育成（特に英語力強化）
- 起業支援、税金控除等バックアップ体制づくり
- 出産・育児支援・教育支援（学習塾等）の充実
- 子ども版ケアマネジャーを配置し、子ども一人ひとりを支援
- 隣近所、地域といった人と人の関わりを重視する取り組みを推進
- 英語教育の充実など教育の魅力化計画を具現化
- 社会性、英語力等、真鶴の子どもはすごいという結果を出しPR
- 真鶴町に住むメリットを増やしPRする
- デメリットの解決は技術革新に任せ、メリットを伸ばす
- 小回りが利き住民の顔がわかる良さを活かす（対話等）
- 自主財源の確保策の検討と、企業や近隣市町との連携強化

どうしたらいい？

∞ 長期的な将来イメージ

真鶴町ランドデザインを推進し、100年後もにぎわいのある町であるために取り組みを展開したらどのようなまちになるか、**長期的な将来イメージ**を描きます。

人づくり/人口対策

- 出産・育児で困ることはなく、子どもたちが公園や海辺を駆け回っている
- ケアマネジャーが子ども一人ひとりを支援し、豊かな人間性が育まれている
- 隣近所、地域の人との日常的な交流がみられ、笑顔があふれている
- 真鶴の子どもは皆、簡単な英会話ができ、外国人とも共生している
- 社会性、英語力等、真鶴の子どもはすごいという評判がたっている
- 住民に誇りや愛着といった感情が一層定着し、定住率が高まっている

観光・体験・PR/観光振興

- 五感で感じることを楽しむ観光客で賑わっている
- 旅行・遠足・研修などでの来訪者が増え、様々なイベントが開催されている
- 心を癒しにくる人が増え、カウンセリングできる機関や人材も整っている

長期的な将来イメージ

自然や風景は現状のままで…

- 自宅で仕事ができる
- 新しい店や企業が開業している
- 来訪者が増えイベントも続々開催している
- 楽しいまちなので若者も増加している
- 安全安心なまち
- 真鶴の子どもは社会性や英語力がすごい
- 真鶴は選ばれるまちになっている

行政経営

- 住民、企業、議会、行政の連携が緊密で、共助の取り組みが増えている
- 小回りが利き住民の顔がわかる良さを活かす（対話等）
- 誇りや愛着のある住民ばかりで、町民が全員名刺を持ち、真鶴をPRしている
- 寄付を含む自主財源の確保が進み、企業や近隣市町との連携も進んでいる

産業/産業振興

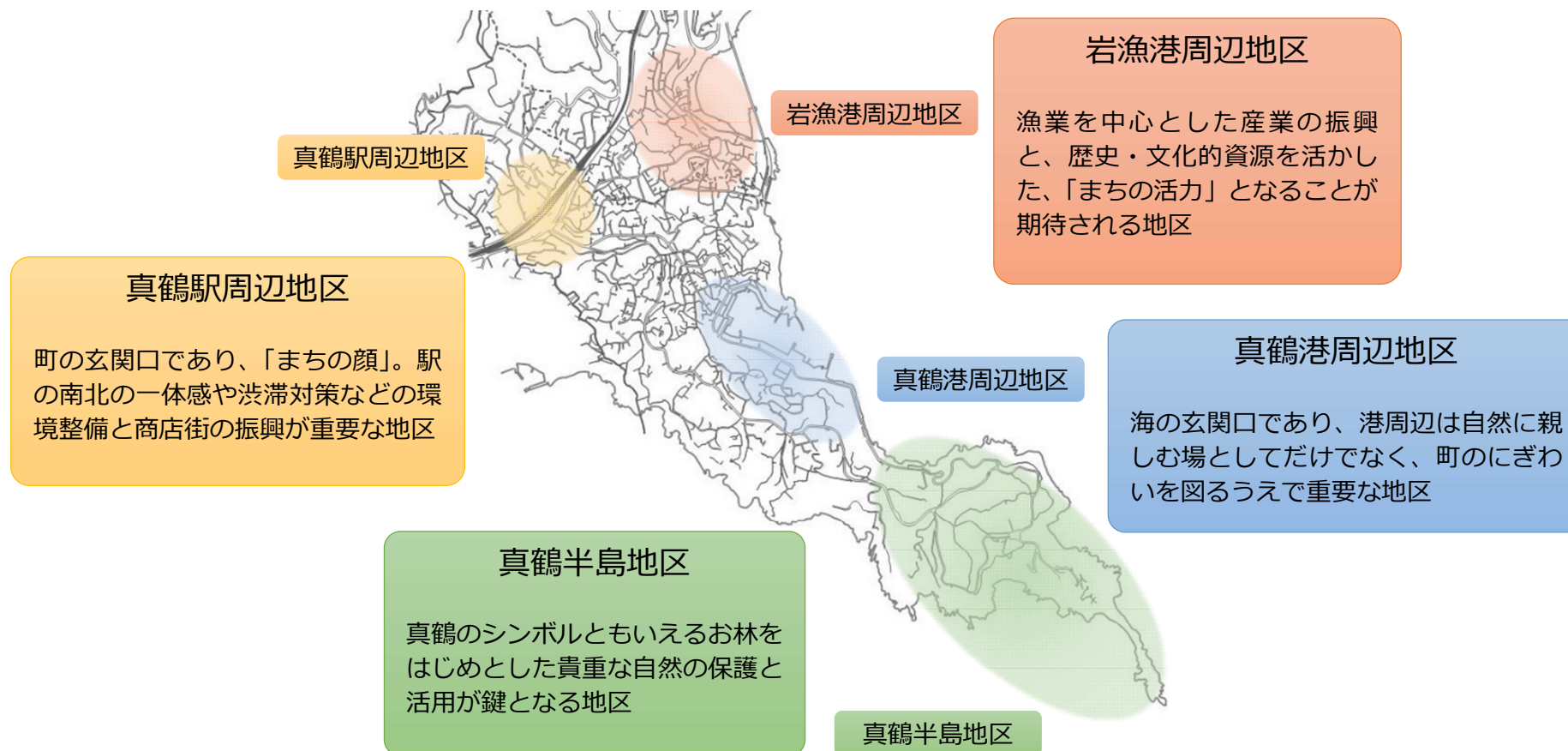
- 開業時だけでなく、後の経営もバックアップする日本一の起業支援体制がある
- 移住開業者には、税金控除等の嬉しい特典があり、続々と起業している
- 農林水産、鉱工業はゼロにはならず、自分に合った職業を選択できている
- UII ターンが全国トップレベルで、生産年齢人口が増えている

基盤整備/生活利便性の向上

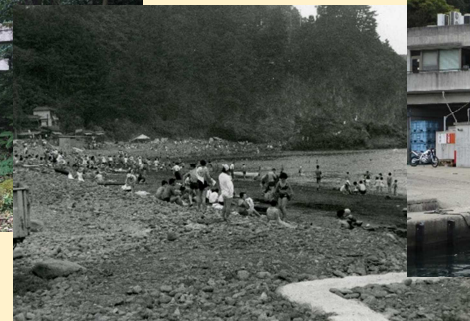
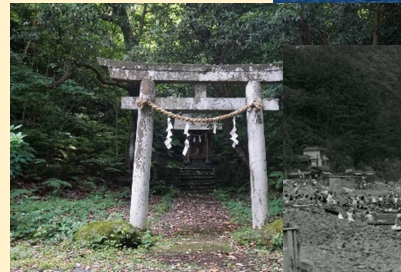
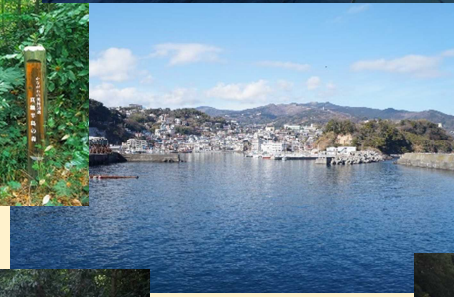
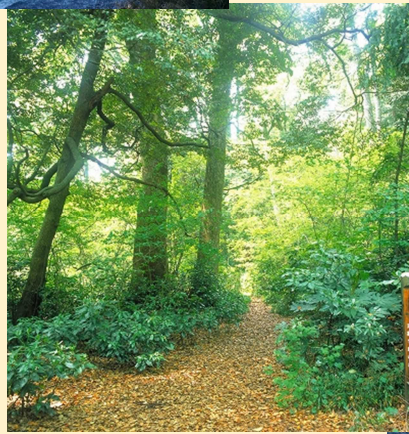
- 津波対策、豪雨対策、地震対策などが進み、交通事故もなくなっている
- 町内全域で無料 wi-fi が整備され、企業は高速通信網を利用している
- 自宅にいながら仕事ができる環境が整い、移住者が増えている
- お年寄りや地域への社会参加が活発で要介護状態になりにくく、医療の相談がかりつけ医にいつでもできる

∞ グランドデザイン 主要地区の設定

人口対策、産業振興、観光振興、生活利便性の向上の4つの柱を展開するための拠点として以下の4地区を選定し、それぞれの地区グランドデザインを策定します。



各地区グランドデザイン



∞ 岩漁港周辺地区 ∞∞

まちの活力

地区のコンセプト

地区のポテンシャルを活かして観光・交流人口を増大させ、「**まちの活力**」として、かつてのにぎわいを取り戻すような地域の活性化を図る

地区の方向性（めざす姿）

∞ 漁業のさらなる振興

- ✓ 岩ガキの養殖などを進め、地区の主力産業である漁業が再生・発展している
- ✓ 網干場などの漁業施設が整備され、漁業の振興が図られていることで、漁業を営む若い人も増えている

∞ にぎわいの創出

- ✓ 地域の歴史・文化を含めた観光資源が創出され、町内外から人が訪れている
- ✓ 日常の不便などが解消され、住環境が向上しており、地域への移住者も増えている

取り組みの方向性

4つの柱

- ◎主たる柱
- 従たる柱

時期

- 短期…概ね5年以内
- 中期…概ね10年以内
- 長期…それ以降

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞自然豊かな環境を売りにした、移住の促進	◎				中期
☞空家を有効活用した、地域への移住の促進	◎				中期
☞漁業を希望する若者への指導による担い手不足の解消	○	◎			短期
☞町の主要産業となるよう岩ガキの養殖を促進		◎			短期
☞漁港で取れた海産物を食べることでできる場所を整備し、海産物のPRに活用		◎	○		中期
☞駐車場やヘリポートをつくり、活用		◎			長期
☞町の特産物である小松石を活かしたまちなみの形成		◎	○		中期
☞漁港施設の整備による漁業の振興		◎			短期
☞美しい古民家を活かしたカフェなどの整備			◎	○	中期

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞源頼朝に関する歴史的資源のP Rの推進			◎		短期
☞ふるさと町民を活用したリピーター客の増加			◎		中期
☞岩地区の歴史・文化をたどることのできる歴史探訪ツアーなどを整備			◎		中期
☞海辺という環境を活かした、若い人も1年を通して楽しめるようなアクティビティの整備			◎		中期
☞沖防波堤建設により、漁業と防災の面の環境向上		○		◎	長期
☞地域住民が安心して暮らせる観光マナーとルールの啓発			○	◎	中期
☞子どもが安全に遊べて、大人が見守ることのできるような環境や親水公園などの施設の整備	○			◎	中期
☞岩ふれあい館の整備と有効活用の検討				◎	中期

短期事業の概算事業費

単位：千円

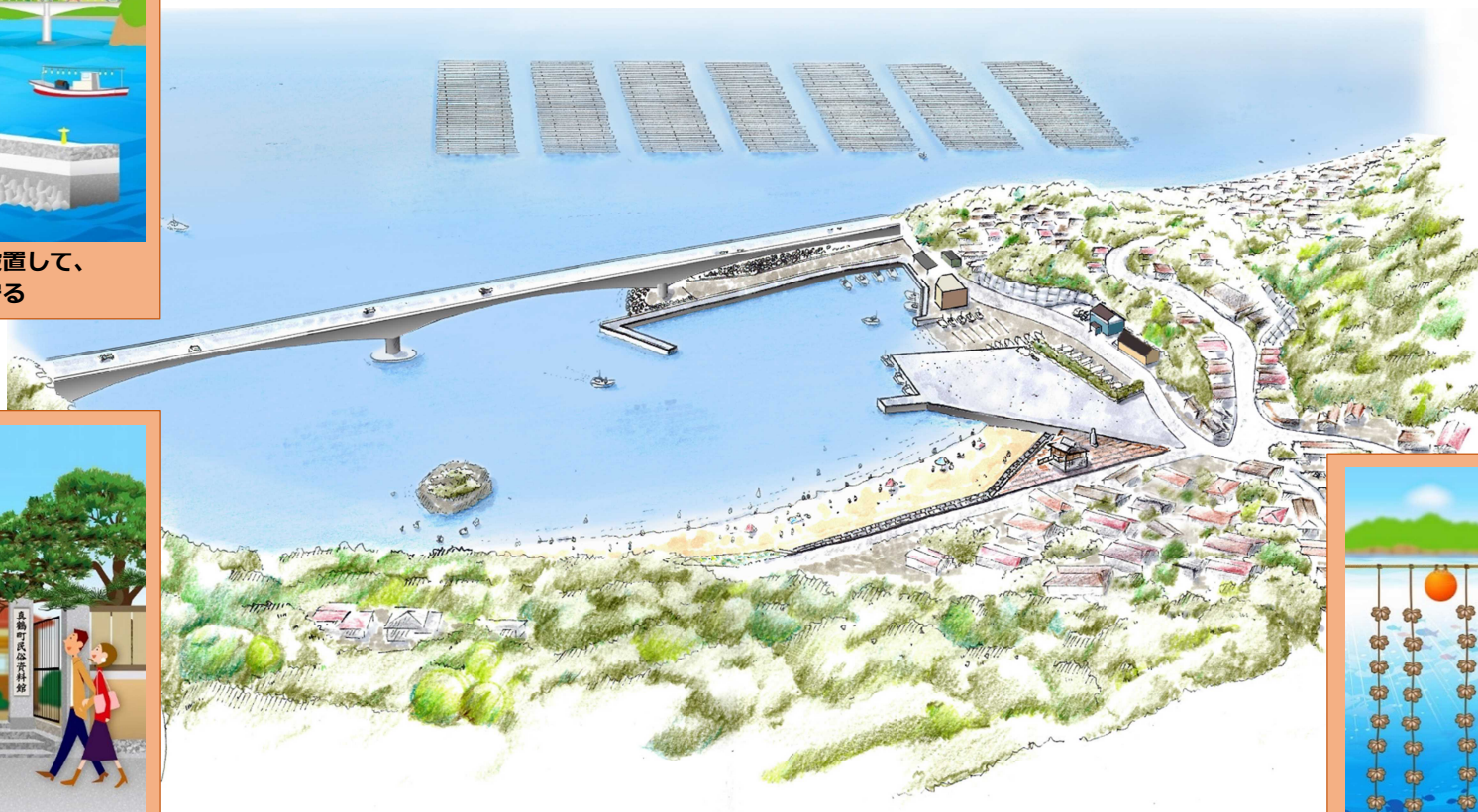
取り組み	概算事業費
漁業を希望する若者への指導による担い手不足の解消	8,000
町の主要産業となるよう岩ガキの養殖を促進	180,000
漁港施設の整備による漁業の振興	67,000
源頼朝に関する歴史的資源のP Rの推進	1,000



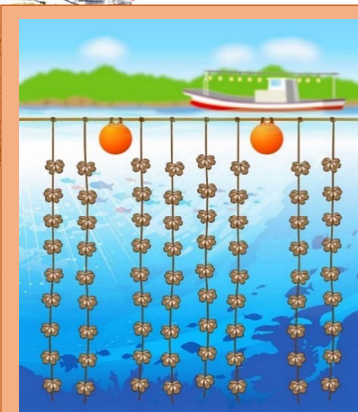
沖防波堤を設置して、
町の安全を守る



民謡資料館を観光ルートの一
部、休憩拠点として活用する



出典：平成28年度 漁業所得倍増対策基礎調査業務委託事業 業務報告書



カキ養殖場をつくり、
町の産業を活性化する

∞ 真鶴半島地区 ∞∞

まちのシンボル

地区のコンセプト

真鶴の「まちのシンボル」として、お林などの貴重な地域資源を守りつつ、真鶴らしさを味わえるような活用を図る

地区の方向性（めざす姿）

∞ お林をはじめとした自然、歴史、文化の保全

- ✓ 美しい海やお林の保護と活用が両立され、真鶴のシンボルとして町民や来訪者から親しまれている
- ✓ お林をはじめとした自然の中での教育が町内外に浸透し、特色ある子育て環境が生まれている

∞ 観光、滞留拠点の整備による地域の魅力向上

- ✓ 半島の自然を活かした観光が確立され、「真鶴ファン」を生み出している
- ✓ 半島で安全に移動ができ、観光や自然の案内がわかりやすくなっている

取り組みの方向性

4つの柱

- ◎主たる柱
- 従たる柱

時期

- 短期…概ね5年以内
- 中期…概ね10年以内
- 長期…それ以降

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞貴重な自然を活用した環境教育、海洋教育の推進	◎				短期
☞半島地区内で子どもが安心して遊べるような遊歩道や公園等の整備の推進	◎				中期
☞お林の環境調査、松くい虫被害対策などによる環境保全		◎			短期
☞寿命を迎えるマツの有効活用（伐採・ブランディング・PRなど）の検討		◎			中期
☞お林や海岸に関するルール策定と周知		◎	○		短期
☞ARなどのICT技術を活用した半島地区全体を博物館のように楽しめる仕組みづくり			◎		中期
☞ツリーハウスなどの自然とふれあいながら楽しめるアトラクションの創出			◎		中期
☞半島内を散策する際に休憩、足を止めることのできる場所の整備			◎		中期
☞亀ヶ崎、水族館跡地へのアクセス環境の整備			◎		中期

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞ 宿泊施設等の整備による観光客が滞留する環境整備の推進			◎		中期
☞ 番場浦駐車場の有効活用（キャンプ場としての活用等）			◎		中期
☞ 大浜、高浦、番場浦などの半島周辺の遊歩道の整備			◎		中期
☞ 半島地区内における案内板等の整備や案内方法の工夫			◎		短期
☞ 花を活かした半島の整備、推進			◎		短期
☞ 自然環境を守りつつ交通利便性を高めるため電気自動車やセグウェイでのパークアンドライドの推進			◎	○	長期
☞ 琴が浜と半島地区を結ぶアクセス環境の整備（県道739号線の改良促進）			◎	○	長期

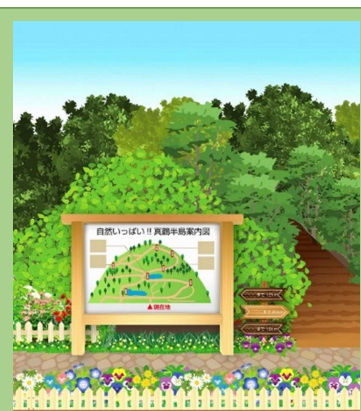
短期事業の概算事業費

単位：千円

取り組み	概算事業費
貴重な自然を活用した環境教育、海洋教育の推進	10,000
お林の環境調査、松くい虫被害対策などによる環境保全	80,000
お林や海岸に関するルール策定と周知	2,000
半島地区内における案内板等の整備や案内方法の工夫	5,000
花を活かした半島の整備、推進	5,000



半島内の自然を活かしたアトラクションを生み出す



真鶴半島を歩きやすく、歩いて楽しい場所にする



水族館跡地を海辺で楽しく遊べるように活用する

∞ 真鶴港周辺地区 ∞∞

まちの起点

地区のコンセプト

産業、防災面の拠点としての機能を維持しつつ、「**まちの起点**」として、貴船まつりなどの歴史的文化や磯料理などの食文化を通して、にぎわいの創出を図る

地区の方向性（めざす姿）

∞ ソフト面の施策による真鶴港周辺の魅力向上

- ✓ 観光・体験活動が盛んに行われ、様々なイベントが年中楽しめ、貴船まつりの季節には世界中から多くの人が集まる
- ✓ 港周辺で子どもが安心して遊ぶことのできるような仕掛けがあり、海に親しめる場となっている

∞ 公共施設等の再活用等によるにぎわい創出

- ✓ 港周辺の公共施設が再活用され、地域活動に加え、起業をしようとする人も増えている
- ✓ 公共施設や空地・空家の活用により、観光客の受け入れ態勢が整っている

取り組みの方向性

4つの柱

◎主たる柱

○従たる柱

時期

●短期…概ね5年以内

●中期…概ね10年以内

●長期…それ以降

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞ 起業支援や創作拠点整備による新たな人の流れの創出	◎	○			中期
☞ 地元産業（漁業と石材業）の活性化と担い手の育成	◎	○			中期
☞ ニーズや用途を捉え、周辺にある町施設を地域交流や新たな産業の創出拠点として再整備	◎	◎			長期
☞ 鮮度よく保つ最新型の冷凍設備の整備と魚市場の拡充		◎			中期
☞ 水産業の振興のための施設として、魚座の活用		◎	○		短期
☞ 地元産業の活性化と観光振興に活かせる複合施設の整備と宿泊施設不足の解消		◎	◎		中期
☞ 真鶴港を起点として、観光客も地元の人も町全体を循環できる仕組みづくり		◎	◎	○	長期
☞ 全国・世界からより多くの観光客を集客するために貴船まつり等のイベントの周知・宣伝			◎		短期

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞海上保安庁巡視艇体験乗船やヨット体験乗船、漁業体験をはじめとする体験型のイベントの充実			◎		中期
☞地元でとれる新鮮な魚を安く食べられる“食”による集客力の向上		○	◎		中期
☞100人規模が入れる飲食施設と大型バスも停められる駐車場の整備		○	◎		中期
☞自然海岸や沖（海上）を活用し、多様な釣り方が楽しめる釣り場の整備			◎		中期
☞子どもが安全に遊べ、誰もが気軽に利用でき、憩える親水公園の整備				◎	中期
☞整備された公園や歩行空間で、年間を通じて、観光客と地元の人が交流できる様々なイベントの実施			◎	◎	中期
☞上から見下ろす港の景色、船から見渡すまちなみの景観など、美の基準を生かした真鶴港周辺の景観の保持				◎	長期
☞琴が浜と半島地区を結ぶアクセス環境の整備（県道739号線の改良促進）			○	◎	長期
☞避難港及び災害時の緊急物資受入拠点としての防災機能の強化				◎	長期

短期事業の概算事業費

（単位：千円）

取り組み	概算事業費
水産業の振興のための施設として、魚座の活用	20,000
全国・世界からより多くの観光客を集客するために貴船まつり等のイベントの周知・宣伝	14,000



出典：「かながわの港湾」



魚市場がにぎわっている



子どもが親水公園で遊んでいる

∞ 真鶴駅周辺地区 ∞∞

まちの門口

地区のコンセプト

「まちの門口」として、安全性、利便性、快適性の向上と町の玄関口にふさわしい整備を図る

地区の方向性（めざす姿）

∞ 美の基準を活かした昔ながらの良さを活かす

- ✓ 美の基準に基づく統一的な景観が人々の心をつかみ、町の中へ行ってみたいとなる玄関口となっている

∞ ロータリーの再整備による人の流入の誘導

- ✓ 公共交通と送迎車輛、観光車輛の共生が実現している

∞ 安全で快適に移動でき、にぎわいのある駅前

- ✓ 駅前交差点周辺における移動の安全性と利便性が向上している
- ✓ 商店街には観光客も地元の人も買物に訪れ、笑顔で会話する姿があちらこちらで見られる

取り組みの方向性

【駅・ロータリー】

取り組み	人口対策	産業振興	観光振興	生活利便性の向上	時期
☞ 駅ロータリーの利用実態調査の結果や、公共交通の活性化や再生の考え方も取り入れた、利用ルールの変更				◎	短期
☞ 観光客も地元の人も、いつでも誰でも気軽に立ち寄り、ちょっと座って会話ができるスペースの整備			◎	○	中期
☞ 美の基準や安全性を考慮して大規模な地上の整備はなるべく行わず、駅前に地下街を整備するなどの地下の有効利用			◎	○	長期
駅ホームの直線化				◎	長期
改札口の橋上化				◎	長期

【駅前交差点・道路】

取り組み	人口対策	産業振興	観光振興	生活利便性の向上	時期
☞ 道路の拡幅、右折レーンの設置、時差式信号の導入、地下道の整備など、あらゆる手段の検討による、駅前交差点の安全性の向上				◎	中期

4つの柱

- ◎ 主たる柱
- 従たる柱

時期

- 短期…概ね5年以内
- 中期…概ね10年以内
- 長期…それ以降

【駅北・駐輪場】

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞ 駅南北の往来の円滑化のための跨線橋南側へのエレベータの設置【県事業】				◎	短期
☞ 安全な送迎を実現するための駅北側への送迎車用のスペースの整備				◎	長期
☞ 駅北側への商業施設の誘致や、公共施設の有効活用を検討	◎	○	○	○	長期
☞ 有事の際の避難救出活動の拠点となる、高台にある駅の北側へのヘリポートの設置				◎	長期

【商店街】

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞ 駅前の空き店舗を活用しつつ、やる気のある起業家を誘致するための経営まで支援する日本一のバックアップ体制の構築	○	◎			中期
☞ 建物の建て替えにあわせて木材を活用した統一的な建築物の整備を要請するなどの、美の基準の具現化			◎		中期

【その他】

取り組み	人口 対策	産業 振興	観光 振興	生活利便 性の向上	時期
☞ 荒井城址公園までの行きやすさの改善、管理方法の工夫、遊具の整備など、地域の方々との協働による取り組み				◎	中期
☞ 駅周辺に道の駅等の誘致		○	○		長期
☞ 南北を結ぶ道路・橋りょうの整備				○	長期
☞ 桜の見える公園の整備			◎		中期

短期事業の概算事業費

(単位：千円)

取り組み	概算事業費
駅ロータリーの利用実態調査や、公共交通の活性化や再生の考え方も取り入れた、利用ルールの変更	3,000
駅南北の往来の円滑化のための跨線橋南側へのエレベータの設置【県事業】	—



駅前が無料 wi-fi となり、若者や外国人がスマートフォンやタブレットを使って喜んでいる



移住してきた起業家が駅前商店街で開店する

∞グランドデザインのキャッチフレーズ

このグランドデザインを長期にわたり推進していくために、町全体で共有できるキャッチフレーズを考案しました。

都会にないものがいっぱい・**すごいぞ**真鶴 ~ わくわくが止まらないまち ~

す

・・・ **スロー&スマート ライフ**（仕事は効率的に、あとは真鶴時間を楽しむ）

ご

・・・ **互助がすごい**（地域ぐるみの子育て、お年寄りへの配慮、移住者もサポート）

い

・・・ **いつでも触れ合い**（住民同士の会話が長く、来訪者も仲良くなれる）

ぞ

・・・ **続々誕生**（駅前商店、ベンチャー、飲食店、名物料理、イベント）

資料

※資料は、「策定の経緯」、「意見集」、
「活動報告（若手WS・協議会・住民意見交換会）などが入ります。

ご意見の提出先		
真鶴町役場	企画調整課	企画情報係
■ 住 所	真鶴町岩244-1	
■ 電話番号	0465-68-1131（内線323）	
■ F A X	0465-68-5119	
■ 町ホームページ（メールフォーム）	http://www.town.manazuru.kanagawa.jp/	

真鶴町グランドデザイン(案)に対するご意見

提出日	平成 年 月 日
-----	-------------------

氏名または法人・団体名	(法人・団体の場合は、法人・団体名、代表者氏名)	性別	年代
		男・女	歳代
住所または所在地		電話番号	

※真鶴町外にお住まいの方のみご記入ください	
所属先等の名称	

ご意見

（裏面に続く）

ご意見

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

- 1 本意見募集に係る意見の応募は、多種多様な意見を反映することを目的とし、原則一人一回とします。ただし、一度応募したうえで、意見の変更や追加があった場合は、期間中であれば意見の差し替えは何回でも可能とします。
- 2 ご記載いただいた個人情報（匿名投稿による利害関係者へのなりすましや、同一人物による多重投稿がないよう確認のために記載いただくものであり、他の目的には使用しません。これらは、真鶴町個人情報保護条例に照らし合わせて適切に収集・保有するとともに、募集期間終了後には、意見は匿名化（個人を特定しうる情報の削除）の加工をしたうえで使用します。

真鶴町グランドデザイン(案) に対する意見募集(パブリックコメント)

人口減少や少子高齢化に対応した自立する町をめざし、町の今後の方向性を示すグランドデザイン(将来構想)の策定を進めてきましたが、その案の完成に合わせパブリックコメントを実施します。

□問い合わせ 企画調整課 ☎内線 3 2 3

◇募集期間 1月25日(金)～2月14日(木)まで(必着)

◇閲覧場所

- ①役場企画調整課窓口(月～金曜日・午前8時30分～午後5時15分まで・祝日を除く)
- ②町民センター2階受付、情報センター真鶴2階受付(閉館日除く)

◇意見を提出できる人

町内に在住・在勤・在学の人、真鶴町に納税義務のある人、本グランドデザインに利害関係のある人

◇提出方法

メールフォーム、郵送、ファクスまたは直接持参により、2月14日(木)必着で提出してください。

提出方法	様式	宛先等
①メールフォーム	リンク先にアクセスし、必要事項を記入	リンク先： http://shinsei.e-kanagawa.lg.jp/kanagawa/navi/procInfo.do?govCode=14383&acs=granddesigncomment
②郵送	閲覧場所に置いてある意見提出用紙に必要事項を記入	送付先：〒259-0202 真鶴町岩244-1 真鶴町役場企画調整課企画情報係
③ファクス		ファクス番号：68-5119
④直接持参		提出先：役場2階企画調整課へ直接お越しください。 (月～金曜日・午前8時30分～午後5時15分・祝日を除く)

※必要事項が明記されていないと、パブリックコメントとして受け付けられませんのでご注意ください。

◇その他 個々のご意見等には直接回答はしませんので、いただいたご意見等とこれに対する考え方は、意見募集期間終了後、公表します。

パブリックコメントに関する説明会

	期日	時間	場所
第1回	1月22日(火)	午後1時30分～3時30分	町民センター 講義室
第2回		午後6時30分～8時30分	

◇内容 ・これまでの経過やグランドデザイン案について・パブリックコメントの提出方法